



CS design award
THE 21TH CS DESIGN AWARDS 2020



目次

一般部門	01
グランプリ	02
準グランプリ	04
優秀賞	07
中川ケミカル賞	12
審査員講評	16
審査風景	21

学生部門	23
テーマ：35th Anniversary (or 35)	
金賞	24
銀賞	26
銅賞	28
入選	30
審査員講評	33
審査風景	37

ご挨拶【中川興一】	38
募集要項	40

Contents

General Category	01
Grand Prix Award	02
Quasi-Grand Prix Award	04
Excellence Award	07
Nakagawa Chemical Award	12
Judges' Comments	16
Scenes of Judgement	21

Student Category	23
Theme : 35th Anniversary (or 35)	
Gold Award	24
Silver Award	26
Bronze Award	28
Excellent Work	30
Judges' Comments	33
Scenes of Judgement	37

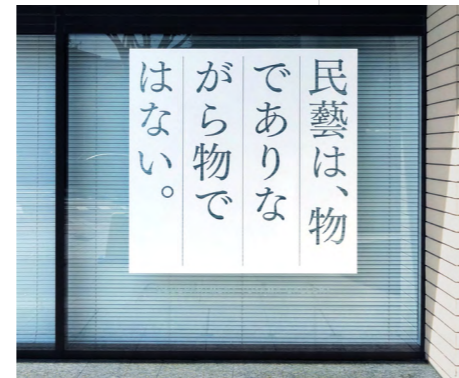
Acknowledgement [Koichi Nakagawa]	38
Solicitation Conditions	40

一般部門

General Category

グランプリ

Grand Prix Award



D&DEPARTMENT TOYAMA GALLERY

デザイナー／宮田 裕美詠 [ストライド]

施工管理／濱 貴文 [ハマ企画(株)]

施工／大浦 裕二、早川 勝美、齊藤 累 [ハマ企画(株)]

クライアント／ディアンドデパートメントプロジェクト

ディレクター／ナガオカケンメイ [ディアンドデパートメントプロジェクト]

進行管理／進藤 仁美 [ディアンドデパートメントプロジェクト]

フォトグラファー／柿本 萌 [ストライド]

D&DEPARTMENT TOYAMA GALLERY

Designer／Yumiyo Miyata [STRIDE]

Construction manager／Takayoshi Hama [Hamakikaku Co., Ltd.]

Constructor／Yuji Ooura, Katsumi Hayakawa, Rui Saito

[Hamakikaku Co., Ltd.]

Client／D&DEPARTMENT PROJECT

Director／Nagaoka Kenmei [D&DEPARTMENT PROJECT]

Progress manager／Hitomi Shindo [D&DEPARTMENT PROJECT]

Photographer／Moe Kakimoto [STRIDE]



準グランプリ

Quasi-Grand Prix Award



挟まる人

ディレクター、デザイナー、フォトグラファー／志茂 浩和 [神戸芸術工科大学]

Trapped

Director, Designer, Photographer／Hiroyasu Shimo
[Kobe design university]



Installation view: Roppongi Art Night 2018



鈴木マサルの傘 pop up store 2018

ディレクター／鈴木 マサル [(有)ウンピアット]

デザイナー／鈴木 マサル [(有)ウンピアット]、坂元 夏樹

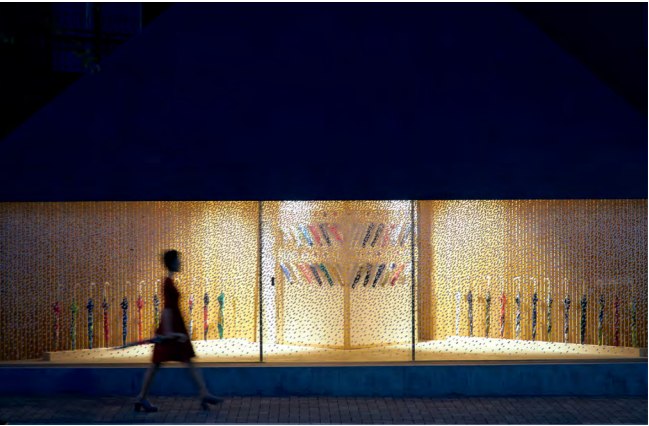
フォトグラファー／三嶋 義秀

Masaru Suzuki's umbrella pop up store 2018

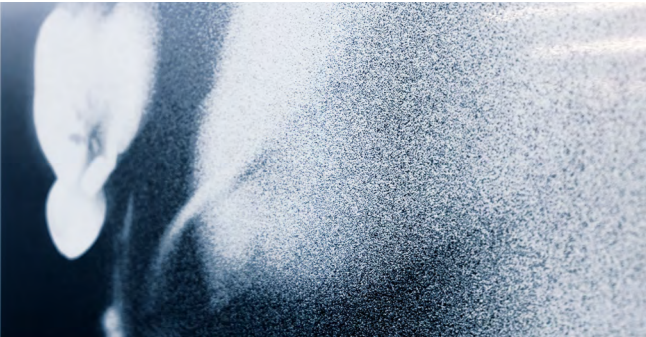
Director／Masaru Suzuki [UNPIATTO INC.]

Designer／Masaru Suzuki [UNPIATTO INC.], Natsuki Sakamoto

Photographer／Akihide Mishima



準グランプリ
Quasi-Grand Prix Award



affects

ディレクター／村上 雅士 [m | emuni]
デザイナー／村上 雅士、柴田 萌 [m | emuni]
クライアント／(株)竹尾 青山見本帖
プリンティングディレクター／川端 孝一郎 [(株)日光プロセス]
フォトグラファー／桜井 ただひさ



affects

Director / Masashi Murakami [m | emuni]
Designer / Masashi Murakami, Moe Shibata [m | emuni]
Client / TAKEO Co, Ltd. Aoyama MIHONCHO
Printing Director / Koichiro Kawabata [Nikko Process Co, Ltd.]
Photographer / Tadahisa Sakurai

優秀賞
Excellence Award



あおぞら皮膚科クリニックサイン計画

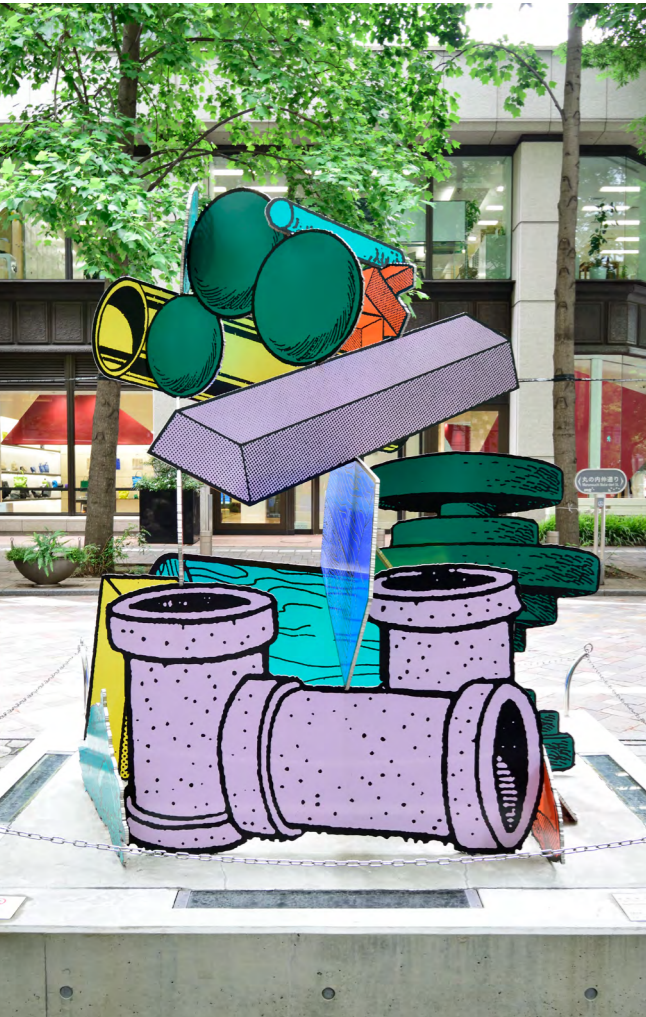
ディレクター／廣村 正彰 [廣村デザイン事務所]
デザイナー／平島 太一 [廣村デザイン事務所]
クライアント／あおぞら皮膚科クリニック
フォトグラファー／ナカサアンドパートナーズ

Aozora Dermatology Clinic Signage System

Director / Masaaki Hiromura [HIROMURA DESIGN OFFICE]
Designer / Taichi Hirashima [HIROMURA DESIGN OFFICE]
Client / Aozora Dermatology Clinic
Photographer / Nacása & Partners Inc.



優秀賞
Excellence Award



Hard Boiled Daydream (Sculpture/Spook) #1

監修／(公財)彫刻の森芸術文化財団
アーティスト／金氏 徹平
主催／三菱地所(株)

Direction ／ CHOKOKU-NO-MORI ART FOUNDATION
Artist ／ Teppei Kaneuji
Organizer and Sponsor ／ MITSUBISHI ESTATE CO., LTD.



日本郵政株式会社 本社オフィス 応接室

ディレクター／齋藤 隆司 [日本郵政不動産(株)]
デザイナー／平手 健一 [テラダデザイン一級建築士事務所]
空間設計／崎山 茂、大坪 泰、田口 富英、讃井 章、渡邊 順一、本間 行人、
丸山 義貴 [(株)日本設計]
クライアント／日本郵政(株)
照明デザイン／土井 智子 [(株)YAMAGIWA]
施工／(株)竹中工務店、(株)びこう社
フォトグラファー／大森 有起、川澄・小林研二写真事務所

Reception Room of
Japan Post Holdings Co., Ltd. Head Office

Director ／ Takashi Saito [Japan Post Real Estate Co., Ltd.]
Designer ／ Kenichi Hirate [TERADADESIGN ARCHITECTS]
Interior design ／ Shigeru Sakiyama, Toru Otsubo, Tomihide Taguchi,
Akira Sanui, Junichi Watanabe, Yukito Honma,
Yoshitaka Maruyama [NIHON SEKKEI, INC.]
Client ／ JAPAN POST HOLDINGS Co., Ltd.
Lighting design ／ Tomoko Doi [Yamagiwa Corporation]
Constructor ／ Takenaka Corporation, BIKOISHA INC.
Photographer ／ Yuki Omori,
Kawasumi・Kobayashi Kenji Photograph Office



優秀賞
Excellence Award



銀座の白い森

アートディレクター／雲野 一鮮 [fRAum]
アートカリグラファー／ヨウコ フラクチュール [fRAum]
クライアント／樋口 昌樹、檜原 由比子、福田 知子 [(株) ザ・ギンザ]
施工／雲野 一鮮 [クモノデザイン(株)]
フォトグラファー／鈴木 賢一、雲野 一鮮

White forest underground

Art Director／Kazuki Kumono [fRAum]
Art Calligrapher／Yoko Fraktur [fRAum]
Client／Masaki Higuchi, Yuiko Hihara, Tomoko Fukuda
[THE GINZA CO.,LTD.]
Constructor／Kazuki Kumono [KUMONO DESIGN INC.]
Photographer／Kenichi Suzuki, Kazuki Kumono

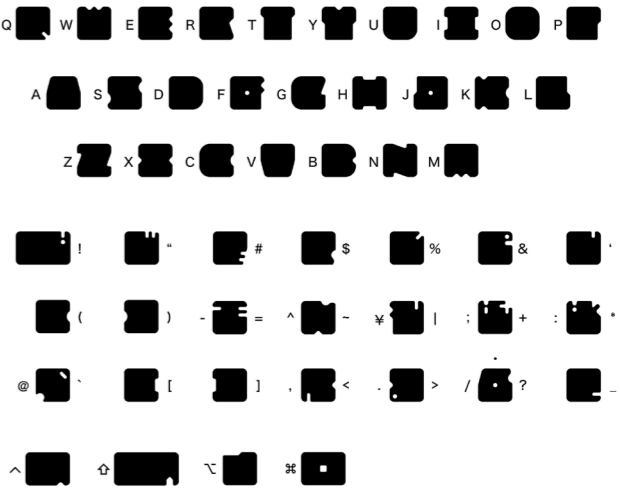


ブラックアウトステッカー

ディレクター／白川 勝悟 [ファーイーストガジェット]
デザイナー／白川 勝悟、竹内 優 [ファーイーストガジェット]

Blackout sticker

Director／Shogo Shirakawa [Far East Gadget]
Designer／Shogo Shirakawa, Masaru Takeuchi [Far East Gadget]





SAGA FURUYU CAMP サイン計画
ディレクター／原田 祐馬 [(株)UMA design farm]
デザイナー／津田 祐果 [(株)UMA design farm]
クライアント／佐賀市
設計／馬場 正尊、加藤 優一 [(株)オープン・エー]、武井 良祐 [(株)OSTR]
施工／納所 靖成 [(株)永池]
フォトグラファー／衣笠 名津美

SAGA FURUYU CAMP
Director／Yuma Harada [UMA/design farm]
Designer／Yuka Tsuda [UMA/design farm]
Client／Saga City
Architect／Masataka Baba, Yuichi Kato [Open A Ltd.],
Ryosuke Takei [OSTR Inc.]
Constructor／Yasunari Nousho [Nagaike co.,ltd.]
Photographer／Natsumi Kinugasa



**100 colors no.25 / 新宿駅
"colorscape"**
会場／JR新宿駅新南改札外「Suicaのペンギン広場」
アーティスト／エマニュエル・ムホー
クライアント／新宿クリエイターズ・フェスタ実行委員会
フォトグラファー／志摩大輔

**100 colors no.25 / Shinjuku Station
"colorscape"**
Venue／Shinjuku Station 「Suica's Penguin Park」
Artist／emmanuelle moureaux
Client／Shinjuku Creators Festa Executive Committee
Photographer／Daisuke Shima





BAO BAO ISSEY MIYAKE CLOUD

デザイナー／平綿 久晃、渡部 智宏 [(株) モーメント]
クライアント／株式会社イッセイミヤケ
フォトグラファー／荒木 文雄

BAO BAO ISSEY MIYAKE CLOUD

Designer ／ Hisaaki Hirawata, Tomohiro Watabe [MOMENT Inc.]
Client ／ ISSEY MIYAKE INC.
Photographer ／ Fumio Araki



2019年の日本の色

ディレクター／菅 章 [大分市美術館]
デザイナー／流 麻二果
クライアント／大分市アートを活かしたまちづくり推進会議
大分アートフェスティバル2019「回遊劇場 SPIRAL」
フォトグラファー／久保 貴史

Colors in Japan, 2019

Director ／ Akira Suga [OITA CITY ART MUSEUM]
Designer ／ Manika Nagare
Client ／ OITA ART FESTIVAL 2019 "Exclusion theater SPIRAL"
Photographer ／ Takashi Kubo



みずみずしくも、プロフェッショナルの切れ味

原 研哉【審査委員長】

カッティングシートは、グラフィックデザインの力を都市空間の中で最大化する色材である。そういう意味で今年のCSデザイン賞は、とても好ましい成果を生み出せたのではないと思う。グランプリの富山のギャラリーのファサードの仕事は、決して大きくはない、むしろとても慎ましい空間を、実に魅力的なエントランスに変容させている。その的確な仕事ぶりに感銘を受けた。毎回テーマや雰囲気異なる展覧会を、それぞれその本質をつかんだグラフィックスに集約していく手腕はとても高度なものであり、堂々とした王道の仕事ぶりながら、みずみずしい感覚の良さもあわせ持ったデザインだと感じた。まさにカッティングシートの魅力の原点を、あらためて思い起こさせてくれる作品である。「六本木アートナイト」参加作品である、ビルとビルの隙間に展開するプロジェクターを使ったアート作品も、とても面白かった。小さな隙間にぎゅうぎゅうに押し込まれる人間は、通常の人間の倍ほどの大きさであるが、そのスケールの選定が絶妙であった。ビルの隙間に仕込まれたスクリーンのサイズが、この作品の着眼点を的確に物語っていた。カッティングシートには、背面投影によってスクリーンの機能を果たす磨りガラス状の製品がある。その素材を

効果的に用いた表現だった。色面を表現する素材だけではなく、隙間の空間に自在に映像を生み出す素材としてカッティングシートを捉えた着画がよかった。「傘」のポップアップストアのガラスのファサードに展開されたグラフィックスもとても気持ちのいい作品だった。カッティングシートは、ビジュアルをかたちづくる素材だけではなく、透過光を上手に制御する素材でもあるわけで、傘の上に落ちかかる影のグラフィックスの美しさは感動的だった。正面にガラスを配した、まさに影を生み出す装置のような建築に、非常によく合致したデザインだと思った。青山見本帳のグラフィックスも同じく透明ガラスの上に展開されたデザインだったが、グラデーションが背景に溶け込んでいく表現がとても自然に展開されていた。ありそうでなかった表現をさり自然に具体化している。グランプリをはじめとする受賞作品はいずれも、カッティングシートを用いたプロフェッショナルの仕事として、グラフィックデザインの領域を勇気づける仕事ではなかったかと思っている。



原点回帰

佐藤 卓

今回の審査は新型コロナウイルスの影響により、一時オンラインでの審査も選択肢にあがったが、結果として例年通り、審査員全員が直接会って討議できたことは、喜ばしいことだった。やはり討議の質を考慮すると、発言のタイミングを摘み辛いオンラインでするべきではないと、個人的には思っていたからだ。そしてコロナ禍では、思いもよらなかった事が身の周りでも次々に起こっている。ソーシャル・ディスタンスが求められるようになった街中には、人と人が適切な距離を空けるために、床にラインや足裏サインが貼られたり、緊急な対応が求められる状況においても、役に立っているシートを見る機会が多くなった。床に貼られたシートを世界中の人がこんなにも意識することは、未だかつてなかったであろう。このことはつまり、必要な時に貼って、変更もしくは不必要になったら綺麗に剥がせるシートの有用性が、既に社会に浸透していたことを物語っている。そして昔に比べ、簡単な床のライン表記を例にとってみても、美しく貼ろうという意識が定着しているように感じられる。ラインを貼るにしても、場所、太さ、色、平行、等間隔、耐久性など、いくつかのデザイン要素を求められるわけだが、ほぼどの現場に行ってもある程度のクオリティーを保っているのだ。これは、中川ケミカルが長年CSデザイン賞を通して、環境デザインとしてのシートのあり方を提案し続けてきた成果が、何かしら影響しているのではないと思う。そして今年の審査



の印象を一言で言えば、ひと回りして基本に帰ったということになるだろう。その象徴として、今年のグランプリが選ばれたように思う。特に大掛かりな演出もなく、今までにない新しい使い方の提案でもない。極シンプルなギャラリーのガラス面にシートを施したシリーズの仕事である。つまり、何かが突出しているのではなく、グラフィックデザインとしての表現力が、他を圧倒したということだ。さほど大きくもない1枚のガラス面が、グラフィックデザインの力によって、実に多様に見える。新しい表現や驚かされることに、とかく目を奪われがちだが、今回はこの基本的なシートのポテンシャルを素直に引き出した仕事に、最終的には審査員全員が魅了された。グラフィックデザイナーとしては、ある意味、嬉しい結果である。ただ、最後まで作品としての総合的な魅力に惹きつけられたのは、準グランプリになった「挟まる人」だ。シートの使い方としては、白いスクリーンでしかないわけだが、都会のビルの隙間に挟まる巨大な動く人は、実にアイロニカルな魅力がある。この2つの仕事在今年は特に印象に残った。世界における新型コロナウイルスの影響はまだまだ続きそうで、人と人の適切な間隔を保つことが、社会のルールになりつつある。そんな中から、先にも例に出したが、床におけるシートの使い方、新しい考え方の壁面サインなどが生まれてくる可能性を感じる。人を驚かすだけではなく、これからは、新しい時代に機能するシートのアイデアがさらに求められるように思う。

Fresh, professional sharpness

Kenya Hara【Chief Judge】

Cutting sheets are colored material to maximize the power of graphic design in urban spaces. In this sense, I suppose that the CS Design Awards this year produced a very favorable result. The work of the Toyama Gallery, the Grand Prix Award winner, transformed an anything but big, rather humble space into a very attractive entrance. I was impressed by its precise performance. The Toyama Gallery integrated exhibitions whose theme and atmosphere were different every time into graphics that caught the essence of each work, which could be achieved by highly advanced skills. I felt that it displayed a fresh sense in its good design, while it took a dignified orthodox method. This was exactly the work to remind us of the core appeal of cutting sheets. The artwork that was entered as Roppongi Art Night was also very interesting because projectors were used to develop the work in the gap between buildings. An individual who was squeezed into the narrow gap between buildings was projected twice as large as average people, and this choice of scale was impeccable. The size of the screen installed into the gap between buildings told us precisely of the artist's intended point of view for this work. The lineup of cutting sheets included one with a finish of frosted glass, which functioned as a screen when projected from the rear. The artist expressed his work effectively using that material. The idea

to capture cutting sheets was excellent as not only the material to express the colors but the material to produce the images freely in the space between the gap. A graphics work developed for the glass façade of an umbrella pop-up store was very pleasant, as well. Cutting sheets are material not only to visualize a shape but also to fully control the transmitted light. The beautiful graphics of shadows falling onto the umbrellas were moving. I felt that the design of this work fully matched the architecture of the glass at the front, which was like a device to generate shadows. The graphics at Aoyama Mihoncho were also designed to develop onto the transparent glass. However, the expression where the gradation blended into the background was very naturally developed. The expression, which we would think was already incorporated but actually was not, took shape easily and naturally. I believe that every work that won the awards, including the Grand Prix Award, encourages the graphic design field for their professional work with cutting sheets.

Back to the Basics

Taku Satoh

Temporary consideration was given to the possibility that the judging of the competition this year would be implemented online because of the novel coronavirus. However, all of the judges met in person as usual for discussions. This was gratifying to me because I personally thought that it would be difficult to find the right time to comment at the online meeting after all, and that such a meeting should be avoided considering the quality of discussions. In the meantime, unexpected events were happening one after another even around us during the COVID-19 pandemic. In town, where we are asked to maintain social distancing, lines and footprint signs are placed on the floor to ensure a suitable distance with others. We have many opportunities to see the sheets that help us even when an emergency response is required. People all over the world would have never been as aware of the sheets on the floor in the past. In other words, this tells us that the usefulness of sheets that can be applied when needed and that can be removed cleanly when circumstances change or are no longer needed has already penetrated into society. Furthermore, when we take simple line signs on the floor as an example, I feel that an awareness of beautiful placement has been established in comparison to the past. Even when lines are applied, several design elements are required that include the location, thickness, color, parallelism, equal distance, and durability. I find a certain degree of quality in those lines no matter where I might go. I suppose that this might somehow be affected by the results that Nakagawa Chemical has suggested which sheets should reflect

environmental design through the CS Design Awards over the years. To sum up the impression of the judging this year, I would say that it has come back full circle to the basics. I think that the Grand Prix Award winner this year was chosen to symbolize this return. The winning work did not particularly produce a large-scale performance or make a proposal for a totally new use of sheets. This was a series of works using the sheets on the extremely simple glass of a gallery. In other words, the expression as a graphic design overwhelmed others but not because it had something that stood out. One glass surface, which was not very large, looked very diverse. We opted to be fascinated by a new expression or a surprise, but this time, all of the judges were captivated by the work that drew out the basic potential of the sheets. In a sense, I was pleased at this result as a graphic designer. However, it was the Quasi-Grand Prix Award winner, "Trapped" that attracted me overall as an artwork at the last moment. The artist used the sheet as a white screen, but a huge animated person caught in the gap between buildings in the city had a very ironic appeal. These two works were especially impressive in the current competition. The influence of the novel coronavirus throughout the world continues. Keeping an appropriate distance between people is becoming the rule in the community. As mentioned earlier as an example, I sense potential in this circumstance that will bring the sheets used on the floor or a new concept for wall signs. I feel that the idea for sheets, not only to surprise people but to serve in the new times, will be required more often in the future.

現代性を感じたことについて。

石上 純也

奇抜なアイデアにとらわれずに、作家のセンスを多くの抛り所に生み出された作品には、ある種の普遍性があらわれることがある。だれもが、深く考え込まなくとも、いきなり納得させられてしまうような強さである。今回の作品のなかに、そのようなものがいくつかあったことに、とても好感をもつことができた。特に、「D&DEPARTMENT TOYAMA GALLERY」の各企画展にあわせてウィンドウのデザイン、傘の展示会のためのウィンドウディスプレイ、竹尾のギャラリーで行われたデザイナーの個展のウィンドウグラフィック、これら3点は、そのような傾向をととてもはっきりと含んでいた。絶妙なバランス感覚の中で描かれた絵画のようなこれらのグラフィックは、カットティングシートをオーソドックスな方法で用いて制作されている。そのことによって、一見、カットティングシートを利用するメリットがないかのようにも思えてしまう。しかしながら、これら3作品はどれも透明なガラスに描かれており、ガラスにグラフィックを即座に描いて表現するには、カットティングシートを用いるやり方がもっとも合理的な方法のひとつである。その潔さと研ぎ澄まされたアウトプットに、爽やか



な衝撃を軽やかに感じた。無数のメディアのフォーマットが乱立する今日において、その場に適した表現手法を適切な形でスマートに取捨選択し、俊敏に美しいドローイングを描き出し、すぐにまた、次の場に飛び去っていくような機動性を備えた作家性。それは、その場所が持つコンテキストや条件に対して、表現を規定する限界として捉えずに、むしろ、あたらしいドローイングを描くための可能性として自らの世界に招き入れているようだ。世界のどこにでもどんなものでも描くことができるかもしれないと感じさせるその姿勢と美意識に、現代性を感じずにはいられなかった。

My Opinion of Modernity

Junya Ishigami

Some sort of universality occasionally appears in works of art produced free of outlandish ideas that rely mostly on the artist's sensibilities. Such works have the strength to persuade without everyone having to think too deeply. I found some works among the entries in the current competition that very positively impressed me. In particular, three works comprised those trends very clearly: a design on the window aligned to each exhibition by "D&DEPARTMENT TOYAMA GALLERY", a display on the window for an umbrella exhibition, and a window graphic at a solo exhibition held in a gallery at Takeo. These graphics were produced with cutting sheets in an orthodox way yet appear like paintings drawn with an exquisite sense of balance, which makes us think at first glance as if they did not have the apparent advantage of using cutting sheets. However, the three works were drawn on transparent glass. You will then understand that to express graphics by drawing on glass, the use of cutting sheets is the most reasonable approach. I felt a refreshingly pleasant shock as to their decisiveness and refined output. These days, countless media formats exist. Creativity should equip the artist with the mobility of selecting the approach to the expression appropriate to the occasion and wisely in proper form, of painting a beautiful drawing quickly, and of flying on to the next stage. The artist's creativity

does not regard context or the conditions of a certain location as limits to define the expression, but rather invites the context or conditions into the artist's own world as the possibility to paint a new drawing. I could not help but feel the modern attitude and sense of beauty of the artist, which made me think that they might draw anything anywhere in the world.

ジャンルを超えて

五十嵐 久枝

今年はコロナ禍という予想出来ない事態となり、みなさまにおかれましても混乱の渦中であつたと思います。まずはお見舞い申し上げます。その影響下からも、今年はオンライン審査も止むを得ないと思いましたが、対面審査のご判断をギリギリ最終段階に間に合わせていただいたことで、納得のいく話し合いが出来ましたこと大変有難く思っております。関係者方々のご尽力に感謝いたします。ありがとうございました。今年は、シートワークの王道であるウインドウサインと、ユニークなシート活用事例との対照が印象に残る審査会であつた。グランプリ「D&DEPARTMENT TOYAMA GALLERY」は、ほぼ正方形のウインドウをキャンバスに、絶妙なバランス感覚の屋内外サイン、毎回のデザイン全てが秀逸であり高い評価を集めた。準グランプリ「挟まる人」は、六本木界限での建物と建物の間『すきま』にフォーカスを当て、動画スクリーンによって道ゆく人々を楽しませるパブリックアート作品。あまりにも狭い場所という意外性あるインパクトが驚きとユーモアを増幅させることに成功している。「鈴木マサル



と風景を創造するパターンが合わさりとても美しい現象が捉えられていると感じた。「affects」は、ポスターそのものが通りに吹く風を受け霧散していく様を表現したという作者の意図は完全な形で受けとめられ、これも秀逸であつた。「日本郵政株式会社 本社オフィス応接室」は、通常目にしている切手の画像が天井面に現れているが、小さな切手が拡大化したことによって画像を低解像度ピクセルとしている。また最小ピクセル単位は切手サイズというマニアックな拘りが切手そのものの持つ特異性を炙り出しているかのように感じられた。繋ぎ目を出さないためにピース化したシートを貼り付けるという細密な施工方法の拘りと中和させるカラーリングによって全体像を調和させている。力作であつた。今回も以前にも増して、シートという素材の可能性を正面からだけでなくダイバーシティな視点でも探り出されていることからジャンルを超えてフィット感のある素材であると実感した。さらなる期待は増していくばかりである。最後に、また次回はコロナ感染から解き放たれ、皆さまの活動が行われますよう祈念いたします。

Beyond the genre

Hisae Igarashi

We are experiencing the unexpected situation of the COVID-19 pandemic this year. I believe that everyone is in the midst of chaos. First of all, I would like to express my sympathies to all of you. I thought that online judging would be unavoidable for the current competition under the influence of COVID-19. However, the decision as to whether to convene a face-to-face judgment meeting was made just before the deadline. I am very grateful for the decision, which allowed satisfactory discussions. I appreciate the great efforts of all the parties involved. I was impressed at this year's judgment meeting at the contrast between the window signs as the orthodox method of sheet work and the examples that used sheets in a unique way. The Grand Prix Award winner, "D&DEPARTMENT TOYAMA GALLERY", expressed signs indoors and outdoors with an exquisite sense of balance by using an almost square window as the canvas. Designs were unexceptionally so excellent each time that they received high acclaim. The Quasi-Grand Prix Award winner, "Trapped", is a public artwork to please passersby with video screens that focused on the gaps between the buildings around Roppongi. The unexpected impact of this work on the very narrow spaces successfully amplified the expressions of surprise and humor. I felt that "Masaru Suzuki's umbrella pop up store 2018" seized a

very beautiful phenomenon by combining a window that featured horizontality with a pattern creating the scenery. The artists' intention with "affects" was to express the way that a poster was dispersed by the wind blowing through the street, and it was perceived completely. This work was superb, too. In "Reception Room of Japan Post Holdings Co., Ltd. Head Office" the image of familiar stamps appeared on the ceiling. Magnified images of small stamps were represented by low-resolution pixels. Moreover, the artist set the dimensions of the minimum pixel unit to be the same as an actual stamp. I felt as if such manic persistence to detail had revealed the specific nature of the stamp itself. The entire work harmonized with the artist's devotion to an intricate approach to the installation by pasting pieces that were split from a sheet to make no joint lines with the coloring used to neutralize such details. This was a great work. In the current competition, the possibility of sheets as a material has been explored more than ever not only from a single perspective but from diverse perspectives. Thus, I truly felt that the sheets were material that fit beyond the genre. My expectation is increasing even more. And last but not least, I hope that everyone will be free from concern about the coronavirus infection and will resume their activities by the next competition.

デザイナーとアーティスト

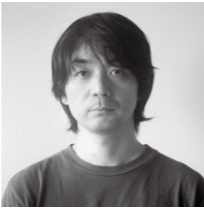
服部 一成

グランプリの「D&DEPARTMENT TOYAMA GALLERY」は、ロングライフデザインをテーマとするギャラリーのガラス窓。各展示ごとの主題をデザイナーが咀嚼して一点の静止画に抽出している。展示を説明するのではなく、通行人が展示に興味を持つ、そのきっかけを差し出すように作っている。僕はそこが素晴らしいと思う。技法としては、1色か2色のシート素材を用いた実にシンプルなものだ。奇抜なアイデアや特殊な技法を使わなくても、一番スタンダードな方法でも、よく考えを練り、大胆さと繊細さを持ち、美しい造形で定着することで、オリジナリティーのある新鮮なデザインは生み出せる。稀有な力量を持ったグラフィックデザイナーが真正面から取り組んだ仕事、という感じで、小さなウィンドウだが印象はゆったりと大きい。やるべきこと以外はやらない、という判断の潔さも気持ち良い。デザイナーは、シート素材の制約をむしろ表現上の味方になっている。準 グランプリの「挟まる人」は、六本木のビルの隙間に巨人が現れた驚きと楽しさのアート作品。アクリルに貼ったシート素材が、映像を映すスクリーンの役割を果たしている。演じる人物たちのちょっとした演技までよく練られていて見入ってしまう。「鈴木マサル」の傘 pop up store

Designer and Artist

Kazunari Hattori

The Grand Prix Award winner, "D&DEPARTMENT TOYAMA GALLERY", was produced on the glass window of a gallery to represent long life design as its theme. The designer interpreted the motif of each exhibition for extraction into a still image. She created the work to offer a chance for passersby to show an interest in the exhibition but not to explain it. I find it wonderful. The technique was very simple. Only one- or two-colored sheet materials were used. With no outlandish ideas, no special techniques, or even the most standard approach, you can produce a fresh design with originality if you refine the idea, demonstrate boldness and subtlety, and preserve it in a beautiful shape. I feel this was a work by a graphic designer with exceptional competence who dealt with it directly. The work was on a small window but gave the impression that it was spacious and large. Her clean decision to do only what was needed felt great. The designer rather took the restriction of sheet material as a strength in her expression. The Quasi-Grand Prix Award winner, "Trapped", is an artwork displaying surprise and fun where a huge person appeared in the gap between buildings in Roppongi. Sheet material pasted onto the acryl was the screen on which the image was projected. Even a little performance by the actors was well thought-out, which made me unintentionally watch the image. In the "Masaru Suzuki's umbrella pop up store



2018」は、傘の展示会のギャラリーのガラス一面を、無数の白い長方形の雨つぶが覆う。昼と夜の、外から見た時と中にいる時の、見え方の変化もよく計算されており、三角屋根の建物と一体化して、歩道を観客席とした舞台装置のよう。「affects」は、個展会場のガラス面を活かしたデザイン。モノクロームの花の写真のポスターが霧のように吹き飛んでいくビジュアルは、最新のSF映画を見るようなインパクトを1枚のグラフィックで感じさせる。僕が今回、一番気になった作品は優秀賞の「Hard Boiled Daydream (Sculpture/Spook) #1」である。丸の内の目抜き通りに設置された、アーティスト金氏徹平氏の作品。漫画の背景画を引用して立体的に構築したものだ。応募の2枚の写真では作品のディテールがわかりづらく、審査のあとで現物を見に行ってみた。広い歩道に設置されたこの屋外彫刻の表面は、シルクスクリーンでも塗装でもなく、無機質で発色のよいシート素材のフラットな色面で覆われている。その質感の無表情さには不思議な迫力があって新しく、かつよかった。アーティストは、新時代の彫刻にふさわしい素材を見つけ出した、そんな感じがした。

2018", the entire glass of the gallery for the umbrella exhibition was covered with countless rectangle-shaped white raindrops. The work was well calculated to appear different during the daytime or at night and from the outside or from the inside. Integrated with the triangular-roof building, the work was a stage set with the sidewalk resembling an auditorium. The work "affects" was designed to make use of the glass of the venue for a solo art exhibition. The graphic design of a black and white photography poster of a flower dispersing like mist had a big impact by itself looking as if we had seen the latest science fiction movie. In the current competition, the work I was most interested in was the Excellence Award winner, "Hard Boiled Daydream (Sculpture/Spook) #1" by artist Teppei Kaneuji, which was installed on the main street of Marunouchi. The background drawings cited from manga comics were constructed in three-dimensional form. Because it was difficult to grasp the details of the work with two photographs, I went to see the actual object after the judging. The surface of this open-air sculpture that was installed on a wide sidewalk was not a silk screen or painting but was covered by a flat, inorganic, bright colored sheet material. That absence of texture had an enigmatic impact, which was new and cool. I felt that the artist found the material suitable for sculptures of a new era.

一般部門 審査風景

General Category Scenes of Judgement



審査員（順不同敬称略）



原 研哉【審査委員長】



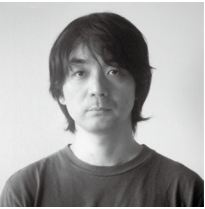
佐藤 卓



石上 純也



五十嵐 久枝



服部 一成

学生部門

Student Category



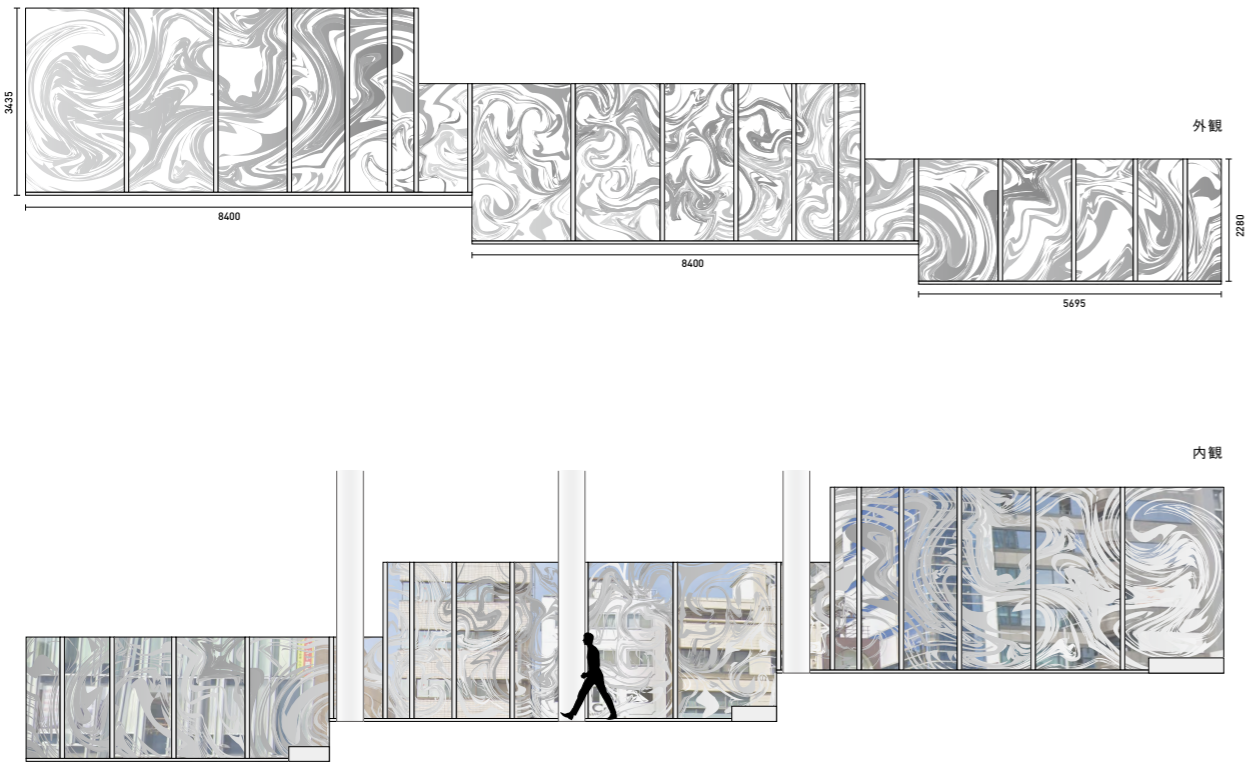
光の年輪
35 annual light rings

大日方 伸、木下 里奈、高盛 竜馬 Shin Obinata, Rina Kinoshita, Ryoma Takamori
慶應義塾大学 政策・メディア研究科／環境情報学部／総合政策学部 Keio University

青山に植わり、35年もの間日本の芸術文化を支えてきたスパイラルという場を一本の大木に例え、その歴史を年輪に写すことにした。一年の時を重ねた分だけ、一輪ずつ刻まれていく。そうして大きく広がった年輪は、屹立する大木が積み重ねた歳月を雄弁に語る。素材には透明性を持った「IROMIZU」を使用し、シートを何層も重ねることで年輪の広がり表現している。窓ガラスからさしてくる光が積み重なり、歴史が深まる分だけ色濃く、鮮やかに発色する。全部で35層ある年輪のグラフィックはスパイラルが育んできた35年の歳月を刻んでいる。大きな年輪の一部を切り取ると見えてくる波のような模様は、渦を巻いて芸術と生活を融合させてきたスパイラルが生み出す波状そのものである。波を起こし、渦を巻き、その軌跡が年輪となって刻まれていく。スパイラルが作り出してきた文化の形を、窓ガラスに貼られた3色の青い年輪の並びが示している。

銀賞

Silver Award



mixture

大柳 友飛 Yuhi Ohyanagi
明治大学大学院 理工学研究科 建築・都市学専攻 Meiji University

concept

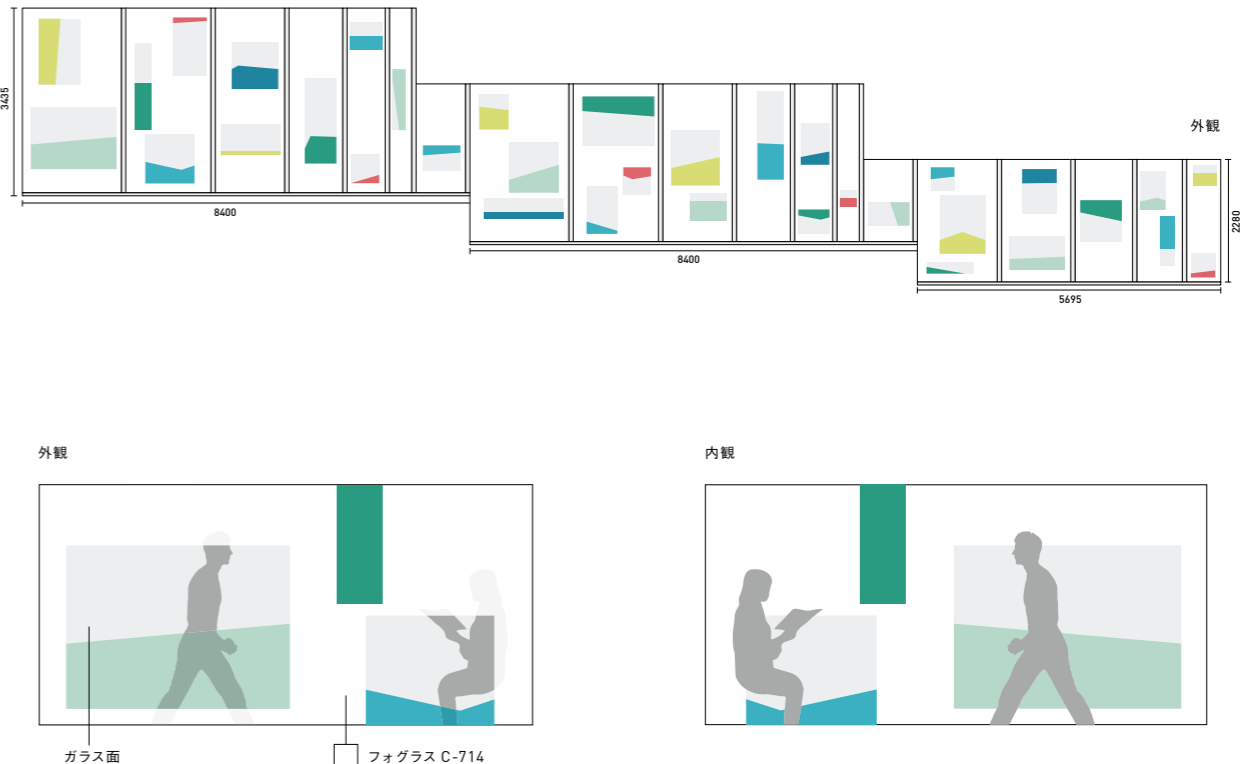
スパイラルのテーマである「日常とアートの融合」をうけ、35年の節目に、それを体現するようなグラフィックを考えました。スパイラルから見える「青山通りの日常」と、アートが展示されている「スパイラルの風景」、そして「そこを訪れる人」が、ガラスの境界面で混ざり合う。その現象こそが、青山と、スパイラルの35年なのではないかと考えました。

風景の混交と、固有な風景

抽象的な模様は、場所や角度によって煙にも、断層にも、液体にも、マーブルのようにもみえるでしょう。それにより、この場所の文脈と、見る人それぞれの解釈とがかさなり、多様な捉え方が生まれます。また、外から中を覗くと、行き交う人がミラーに隠れたり、ミラーが外の風景を反射して周辺の環境と混ざり合うなど、そのときどき固有の景色が、青山の街の中にあらわれます。

カッティングシートの物性と、やわらかな鏡

通常の鏡はその特性上、ガラスの物性に影響を受け、ある程度の大きさが必要になります。しかし、反射素材のカッティングシートを用いると、通常の鏡では不可能な動きのある造形が可能になり、独特な表現が立ち上がります。これは、カッティングシート固有の表現であると考えます。



景色
views

綱川 椎菜 Shiina Tsunakawa
筑波大学大学院 人間総合科学研究科 芸術専攻 University of Tsukuba

Spiralを象徴する「窓」で風景を切り取る。さまざまな視点から文化を切り取り発信してきた、Spiralの35年間を象徴する、35個の「窓」がモチーフ。カッティングシートの透明度の違いを生かして、ガラス面を窓と半透明の壁の2つの役割に分けました。窓の中の景色と抽象的な色面が重なり、屋内外からどちらから見ても、それぞれ新しい景色を見せてくれます。

銅賞

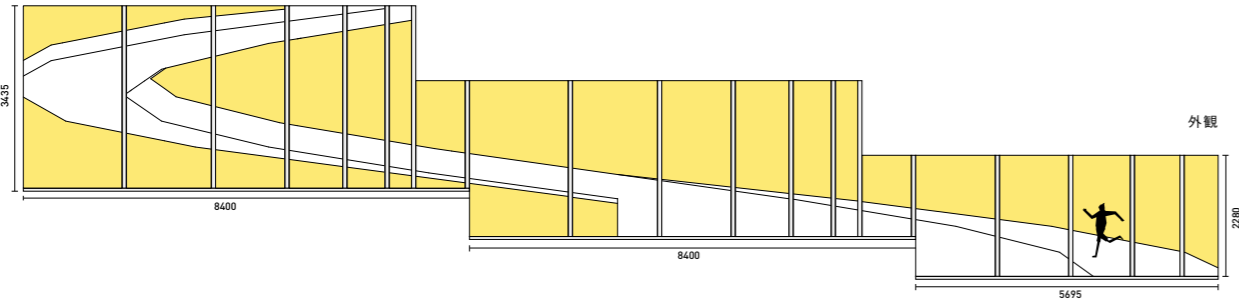
Bronze Award

窓

windows

脇田 樹 Kizuku Wakita
多摩美術大学 グラフィックデザイン学科 Tama Art University

35の開かれた窓と1つの閉じられた窓を配置し、計36の窓で構成しました。35の開かれた窓は、これまでこの空間が歩んできた年月を表しています。閉じられた窓はこれからこの空間が進む時間の先を表わしています。36番目の窓を閉じられている状態にする事でこれから開かれて行くあらゆる可能性を表し、また、すでに開かれた窓と並んで配置されている事によって、この空間へと足を運んだ人々も共に新しい可能性の窓を開いていくのであるという事も伝えています。スパイラルの区切り無い広い窓ガラスに35の窓枠を配置し眺めを区切る事で、この空間に訪れる人々は各自の視点からの景色が意識されます。この窓のグラフィックは実際の窓と違い、どちらから開かれているかという事が分からない為、屋内からの視点と屋外の視点を近いものと意識させる事が出来る。それによって、36番目の閉じられた窓に比喻される、この空間の可能性を開けていく共同作業者の流れをまた大きくする事が出来ます。35周年を祝い、更にはこの空間がこの先ますます開けて行く事を願い制作しました。



走る少年

The running child

若杉 陸 Riku Wakasugi
武蔵野美術大学 造形学部 建築学科 Musashino Art University

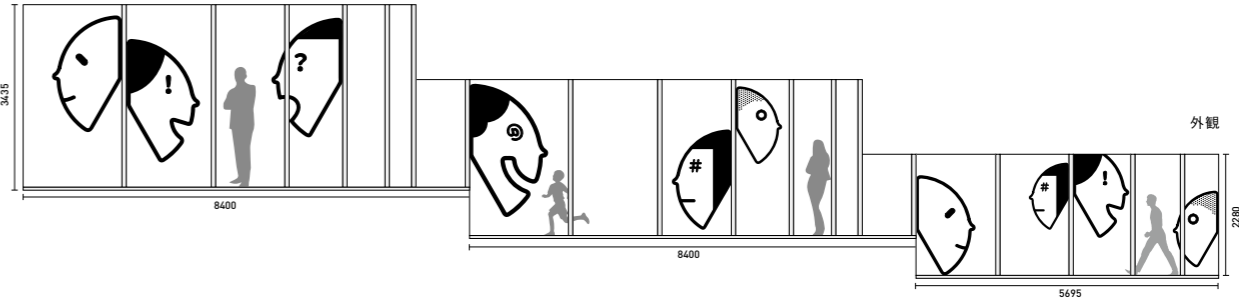
本作はSpiralの代名詞である螺旋スロープがモチーフの立体的なパース絵である。本作はSpiralの屋外側から見ると螺旋の回転方向が反時計回りに見える。しかし、屋内側からは時計回りに反転する。これは立体的な幾何学がパース絵に落とし込まれた時に発揮する興味深い幾何学的性質と言える。このように平面構成と幾何学の面白さを表現することは幾何学で構成されているSpiralへの敬意であり、35th anniversaryに相応わしい意匠である。

その顔その未来

Reflecting the Future

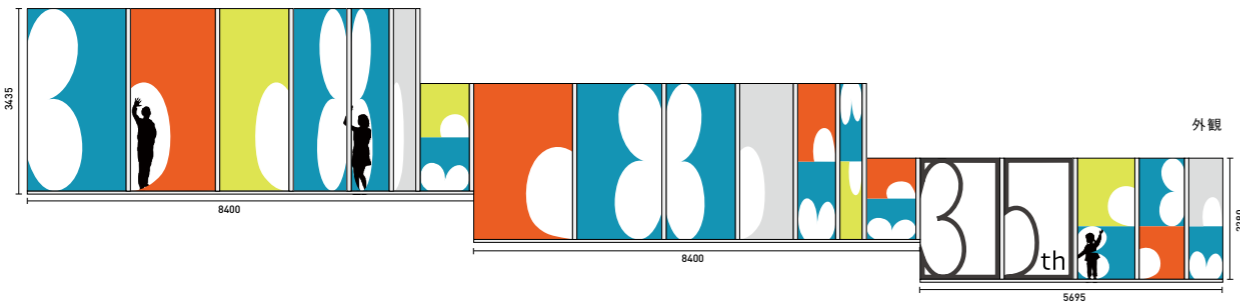
Shuoci Wang
國立雲林科技大學 National Yunlin University of Science and Technology

時計の分針と時針により過去の35年と未来の時間を表現している。「未来への期待」というテーマをとして、人々に未来の様子を想像させ、または鑑賞者とのインタラクティブ性がある絵にする。35年間にスパイラルがたくさん展覧会を行い、多くの人たちの夢を実現させ、たくさん可能性を引き出したが、今後スパイラルはまた何ができるのかを期待している。



入選

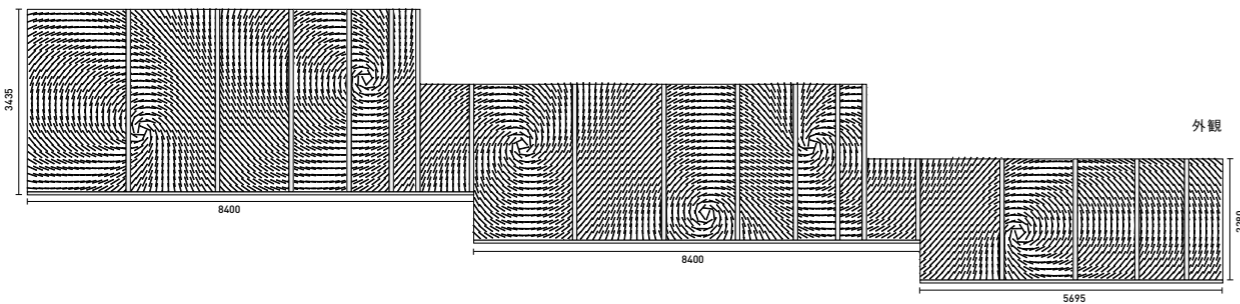
Excellent Work



beyond 35

中村 亜香里 Akari Nakamura
桑沢デザイン研究所 デザイン専攻科スペースデザイン専攻 Kuwasawa Design School

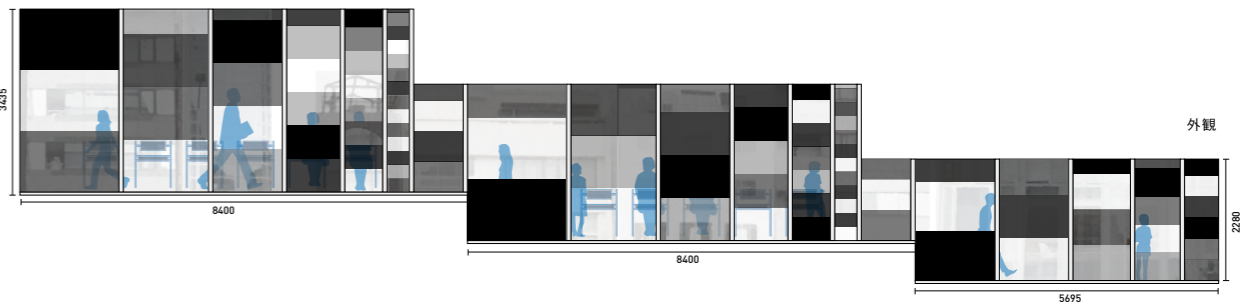
35周年を、スパイラルの中にいる人、外から見ると人のどちらからも祝ってほしい。という想いで「35」をマーク化し、両サイドから楽しめるように散りばめた。「35」のマークは不思議な窓を作り出し、その窓からはいつもと違った景色が切り取られる。「35」の向こう側にはどんな景色が広がっているのか…？35周年にしか現れない不思議な窓を通じて、スパイラルの中と外でのつながりが生まれる。



渦を生み出す群 Pieces In Spiral

品田 十夢、山岡 裕希 Tomu Shinada, Yuuki Yamaoka
東京理科大学 理工学部建築学科／機械工学科 Tokyo University of Science

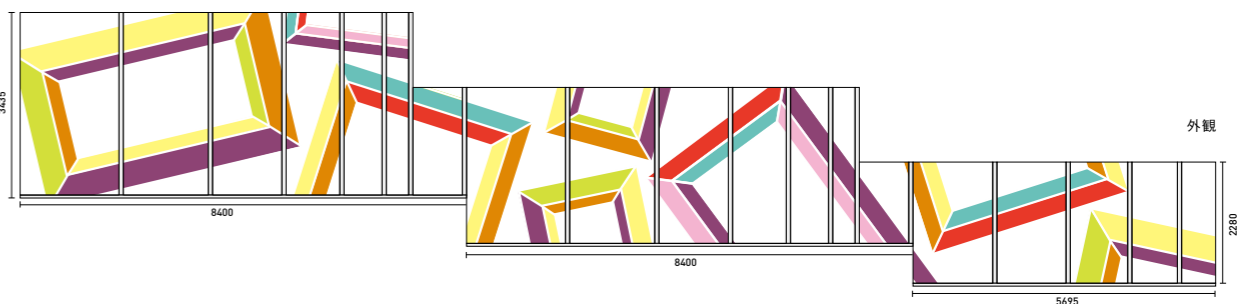
スパイラルは35年もの間、人々の文化的活動の拠点として機能してきた。誰かが生み出す芸術は、時にある人を深く感銘させ、人生の方向性に大きく働きかける。さらに、その人生は、また誰かの人生に影響を与えていく…芸術文化を中心として人々が繋がる様子を、スパイラルに影響されて配置されたミラーの群として表現した。6つのスパイラルはそれぞれ、美術、演劇、音楽、映像、デザイン、ファッションを表している。



反射する窓 Reflection Window

吉岡 哲宏 Tetsuhiro Yoshioka
芝浦工業大学大学院 理工学研究科 建設工学専攻 Shibaura Institute of Technology

窓は、ガラスの後ろに黒い紙をあてると反射して鏡のようになります。この性質を利用して、様々な透明度のカットニングシートを貼ります。すると、時間帯によって透過したり反射する小さな窓がたくさんできます。外を映す窓と、内を映す窓が連続することで内外が曖昧になる効果があります。



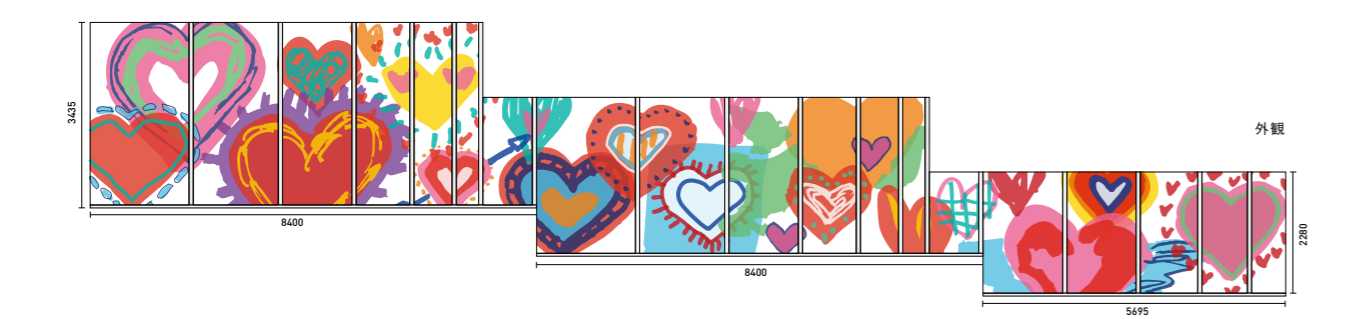
きりとる Kiritoru

新海 友樹子 Yukiko Shinkai
東京藝術大学 美術学部デザイン科 Tokyo University of the Arts

一枚のガラスに向き合った人々は、「見ている」のかそれとも「見られている」のか。自分の視点だけで見た物を切り取ると、新しいことに触れる機会を逃してしまうと考えた。そんなとき、IROMIZUの透明感を活かしたカラフルな額縁のデザインは、景色を遮らずその日の渋谷の空に合わせて様々な光を取り込む。35周年のスパイラルに訪れた人や街行く人が、新しいものに会おう特別な瞬間をこのデザインで手助けしたい。

入選

Excellent Work



festival

鎌田 未波 Minami Kamada
東京造形大学 テキスタイルデザイン Tokyo Zokei University

文化と芸術の発信地として多くの人々に愛されてきたスパイラル。
そんなスパイラルがより一層愛されるように、願いを込めたデザイン。
温かみのある手描きの線とカラフルな色使いで35周年を華やかにお祝います。

第21回CSデザイン賞 審査員講評 [学生部門]
THE 21TH CS DESIGN AWARDS JUDGES' COMMENTS [Student Category]



強度のあるデザイン

色部 義昭 [審査委員長]

今回は課題の出題者として検討段階から参加し、株式会社ワコールアートセンターにご協力いただき35周年を迎えるSPIRALをテーマに出題させていただくことになりました。背景が横文彦氏による意匠性の高い建築であることもさることながら、青山という立地で期間もオリンピックイヤーで賑わう街中ということもあり、学生の参加意欲も高まるだろうと期待して待ち受けていましたが、応募状況を確認していく中で、新型コロナウイルスの問題が徐々に大きくなり、世界を取り巻く状況が一変してしまいました。審査をする前段階で、東京オリンピック延期や非常事態宣言の発令などもあり、このまま審査を継続してもいいのか?課題の再提出をさせるべきか否かなど、審査員の間で根本に立ち返るような闊達な議論も経て、予定を少し遅らせて審査を進めることになりました。個人的にはデザインは良くも悪くも社会の流れに影響される表現活動であり、価値観が日々変化する中でも、幸運も不運も味方につけて前向きなメッセージに転換していくような力強さや、少々の変化ではブレない強さなどといった強度が必要だと思っています。審査にあたっては、いつも以上にその点をふまえながら、カッティングシートという素材/色材の活かし方。表通りの外側からの見え方と建物内部からの見え方における双方の鑑賞ポイントの作り方。そして35周年というテーマの解釈などを中心に評点していました。金賞作品の「光の年輪」は、課題である35周年を年輪に置き換えた真っ直ぐなアイデアや、外光が差し込むSPIRALの窓際空間を生かし、影も含め

Design with Strength

Yoshiaki Irobe [Chief Judge]

I participated in the current competition from the discussion stage as one of the judges who would prepare for the subject. With the Wacoal Art Center we decided to assign the subject based on the theme of Spiral, a building celebrating its 35th anniversary. We were expecting entries from students not only because the background was this high-quality building designed by Fumihiko Maki but because the students' desire for participation would be enhanced by the factors of its location in Aoyama, the period of the Tokyo Olympics, and that the location is a lively downtown area. However, as we checked the status of entries, the problem of the COVID-19 pandemic gradually became serious. Then, the circumstances of the world changed completely. The Tokyo Olympics was postponed, and a state of emergency was declared before our judgment meeting. We returned to the basics through vigorous discussions by asking ourselves if we might continue the judging and if we should ask students to resubmit the subject. However, we decided to delay our schedule and proceed with the judging. Personally, I believe that designing is an expressive activity that is affected by social trends for better or worse, that design must have sufficient power to draw both good and bad luck to its side for conversion into a positive message even though values change from day to day, and that design must demonstrate enough strength not to be shaken by a little change. During the judging, keeping that in mind more than ever, I evaluated the works by focusing on the students' approach: how they used a material or the colored material of cutting sheets; how they created key points for appreciation in terms of how the work would appear from the outside on the main street, as well as from the inside of the building; and how the theme of the 35th anniversary was interpreted. The Gold Award winner, "35 annual light rings", was amazing because of its straightforward idea that the subject of the 35th anniversary was replaced with annual tree rings, as well as the idea that let viewers appreciate the work and

its shadows by making use of the space by the windows of the Spiral Building with light streaming through them. In addition, I was attracted by the dynamism of the composition where three sizes of annual rings were arranged in the complicated shape of the windows that extended transversally and spanned different levels of the floor. The Silver Award winner, "mixture", was a work that made me want to see its actual installation even for a short time. The expression to blend the scenery in a reflection with the one through transparent glass in a marble pattern was strikingly impressive. I especially appreciated bringing out the characteristics of mirror type sheets. I felt the theme of the 35th anniversary was interpreted very aggressively. However, this work showed commendable power even though such a downside was considered. Therefore, this was one of the works that competed for the Gold Award until the last minute. Another Silver Award winner, "views", framed the scenery out of the window and took advantage of the characteristics of translucent and transparent colored materials. I think that the judges developed an appreciation for the author's restricted approach as if ordinary scenery had been silently defamiliarized by presenting vast amounts of visual information through the window via a filter. Among the Bronze Award winners, I was drawn to the work titled "Reflecting the Future", that future. I valued the idea of overlapping the cutout shape representing 35% in a pie chart with a human profile and the approach urging viewers to positively engage in dialog with the work. Our judgment process was conducted under conditions that changed from day to day because of the influence of COVID-19. However, the Gold Award winner, finally selected from among a number of competition entries, was designed with the strength of a thick tree trunk as we saw it. I note that it was symbolic that we selected a work with the strength to endure tough circumstances like the miracle pine tree that survived the Great East Japan Earthquake.

美しく抑制した表現

菊竹 雪

コロナ禍で社会状況が悪化するなか、複合文化施設スパイラルの35周年祝祭がテーマの作品をどう評価するか、審査委員のなかで様々な意見が上がった。CSデザイン賞学生部門は、若々しい視点でガラス面に貼る新しいシートの使い方とその表現方法の提案を期待していることから、私はあえてコロナ禍を意識せず、募集テーマに従って判断すべきという立場で審査にあたった。結果として入賞作品を俯瞰してみると、35周年の意味を様々な視点から導き出し、加えてガラスの特性を活かすIROMIZU、フォグラス、ミラーシート等による新しい表現に挑戦した作品に順当に評価が集まり、学生部門らしい審査を行えたと考えている。金賞に輝いた大日方伸さん・木下里奈さん・高盛竜馬さんによる「光の年輪」は、IROMIZUを重ねたグラフィックで、ガラス面から差し込む光と影でできる形態を想定した作品であり、積み重ねた歳月を美しく抑制して表現している。どのような状況下であっても揺るがないクオリティが存在した。銀賞の大柳友飛さんによる「mixture」は、ミラーシートによる作品で、風景を反射して周辺の環境と混ざり合う外観、空間とそこを訪れる人の動きを映し出す内観。グニャグニャとした不思議なグラフィックが創る空間を体感してみたいと思わせた。

Beautifully controlled expressions

Yuki Kikutake

Various opinions were presented by the judges on how to evaluate the works themed on the celebration of the 35th anniversary of the Spiral cultural-arts complex amid the worsening circumstances of the COVID-19 pandemic. The CS Design Awards Student Category was expected to show new ways of using a sheet pasted to a glass surface and to propose a style of expression from a youthful perspective. Therefore, I dared to take the position during the judging to assess the works in accordance with the solicited theme without considering the COVID-19 pandemic. In looking at the works that won prizes, I think that we judged the entries in a way suitable for the Student Category, since most of our evaluations were reasonably given to the works that drew on the meaning of the 35th anniversary from different points of view and accepted the challenge of a new way to express ideas with materials utilizing the characteristics of glass, such as Iromizu, Foglas, and mirror sheets.The "35 annual light rings" by Shin Obinata, Rina Kinoshita, and Ryoma Takamori, which won the Gold Award, is a work where the shape made of light and shadows through the glass surface is envisioned with graphics overlapping Iromizu. The work beautifully expresses the accumulated years under control and displays the quality that the work will stand firm under any circumstance. The Silver Award winner, "mixture" by Yuhi Ohyanagi, is a work with a mirror sheet, which provides an external appearance that blends into the surrounding environment while reflecting the scenery and an internal appearance that projects the movement of people into the space. The work tempted

同じく銀賞の網川椎菜さんによる「景色」は、フォグラスによってガラス面を半透明に覆いながら、一部を窓として透過させている。さらに窓部に少しIROMIZUで色面を加えたところが、実に効果的であった。銅賞の脇田樹さんによる「窓」は、35の開かれた窓と一つの閉じた窓を、ガラスのサッシをまたいで、赤一色で大胆に力強く表現しているのが魅力的である。色を多用せず、赤一色に割り切ったところが良かった。同じく銅賞の若杉陸さんによる「走る少年」は、スパイラルの空間を象徴するスロープをモチーフに、上昇する螺旋とそこを走って登ろうとする人物がパースペクティブに描かれている。大胆な構成力に思わず惹きつけられるのだが、シートの選択については、もう少し検討する必要があったかもしれない。入賞作品は分かりやすく楽しい表現が多い中、「渦を生み出す群」や「反射する窓」は、建築と共鳴するシート表現の可能性を提示した。実際の建築空間を体感できることもあってか、ガラス面に「閉じる」「開ける」「透過させる」「半透明に見せる」「映り込ませる」など、シートの特性を上手く使い様々な表現の提案があったことが、第21回CSデザイン賞学生部門の大きな成果であったと感じている。

me to experience a space created by deformed and mysterious graphics. The work "views" by another Silver Award winner, Shiina Tsunakawa, uses Foglas to cover the glass surface and make it translucent, while leaving part of the glass transparent as windows. Moreover, some colors with Iromizu added to the area of the windows are very effective. The Bronze Award winner, "windows" by Kizuku Wakita, expresses 35 open windows and one closed window on the glass surface across the sash frame in red only, which is so boldly and powerfully appealing. The decisive use of the red color alone, and not many other colors, was excellent. Another Bronze Award winner, Riku Wakasugi, draws in "The running child" an upward spiral and a person who is about to run up along in perspective with the motif of a slope, which represents the space of Spiral. This work unintentionally attracts people because of its bold composition. However, a little more consideration might have been needed in the selection of the sheet. In the Excellent Works category, many of the expressions were easily understandable and pleasant, while the "Pieces In Spiral" and "Reflection Window" presented the possibility of letting the sheets resonate with the construction. I believe that the great achievement of the 21st CS Design Awards Student Category is of works that provide different proposals of expression and that make good use of the characteristics of sheets, including "close," "open," "transmit," "look translucent," and "get reflected" onto the glass surface, possibly because students who entered the competition could actually experience the architectural space.



CSと変化する時代

廣村 正彰

今回、学生部門の課題は東京青山にあるスパイラルビルのガラスのファサードである。1985年に横文彦氏の設計で建てられたスパイラルビルは「生活とアートの融合」をコンセプトに、現代美術の展覧会からダンスのパフォーミング、レストランやセレクトショップなどその時代の文化を知ることのできる場所として青山通りのシンボルにもなっている。今年35周年という節目にCSとのコラボレーションが実現したのである。1階のカフェ奥にある螺旋状のスロープがスパイラルの由来であるが、そのカフェの横から見渡せる展示スペースはゆったりとした階段をつたって3階のホールにも繋がっており、もうひとつのスパイラルとして展示スペースに使われている。学生たちに与えられた窓面は青山通りから見ると2階から3階に向かって3段階に分かれた窓で、青山通りから見えるビルの窓としての景観と内側の階段から見える通りの風景、どちら側からもデザイン的に成り立つことが重要な課題である。金賞の「光の年輪」は35年の歴史を木の年輪にたとえて表現したデザイン。青い3種類の「IROMIZU」を重ね合わせることで単調ではない歴史の抑揚を、透過性があることで開放感や日差しを受けた年輪が床に豊かな影を

CS and the Changing Times

Masaaki Hiromura

This year, students were asked to submit proposals for the glass façade of Spiral, the building in Aoyama, Tokyo. Designed by Fumihiko Maki with the concept of fusing lifestyle and art, Spiral was built in 1985. The building has become a symbol of Aoyama-dori Avenue as a place to learn the culture of each time period and because the street of restaurants and specialty shops is also the location of events ranging from exhibitions of contemporary art to dance performances. The collaboration with CS has been achieved in the year when Spiral marks its 35th anniversary. The name of the building comes from the spiral slope at the end of the café on the first floor. A gallery space, which you can look down on from the side of the café, is connected through a wide stairway to a hall on the third floor, which is used for exhibitions as another Spiral. The window for students is composed of three levels from the second to the third floor and faces Aoyama-dori Avenue. It is significant that students' proposals are included in the design from both sides—the streetscape as the window when looking at it from Aoyama-dori Avenue and the scenery of the avenue when looking at it from the inside on the stairs. The Gold Award winner, "35 annual light rings", expresses the history of over 35 years using the analogy of annual tree rings. The work is intended to express the rise and fall of a changeable history by overlapping three types of blue Iromizu while using the transparency of the glass to create a sense of openness and to have the sunlight cast a rich shadow of annual tree rings on the floor. This work was chosen for

落とすことを計画している。あえて数字や文字を使わずに歴史の重みや文化の深さを表現していることに共感して金賞に選ばれた。説明的ではないけれどシンプルな表現が素晴らしい。銀賞の「mixture」は両側鏡面のカットティングシートを大理石模様に貼り込んだ作品。「生活とアートの融合」がコンセプトのこのビルに、青山の「風景」と「日常」と「来街者」が混ざり合うという考え。1種類のシートであるものの大理石模様が外の景色と内側の人々を大胆な模様とともに混ぜて見せる。混沌とした時代をアートで表現するスパイラルにはぴったりである。同じく銀賞の「景色」は35個の窓が窓に表現されており、それぞれに抽象的な景色を描いている。内側に人が立ち窓を眺めることで壁にかかった絵画のような印象を受けるのが面白い。今回は新型コロナウィルスの影響や東京オリンピックの延期など不測の事態に直面したことにより審査員で審査方法についても議論をした。審査の延期やテーマの再提案などあらゆる可能性を視野に入れながら話したことは今後のCSデザイン賞にとってとても有意義だったと思う。完璧な審査は難しいけれど最善の審査ができたものと考えています。

the Gold Award because we understood the approach of expressing the weight of history and the richness of culture without numbers or letters. It was not explanatory, but the simple expression was superb. The Silver Award winner, "mixture", is a work where a cutting sheet with mirrors on both sides is pasted to the glass in a marble pattern. The concept blends the scenery, daily life, and visitors to Aoyama at this building whose concept is the fusing lifestyle and art. While only one type of sheet is used, when cut into a marble pattern it shows the scenery outside and the people inside in a bold mix of images. This work is perfect for Spiral because it expresses chaotic times in the form of art. Another Silver Award winner, "views", expresses 35 windows on the glass. Each window displays the scenery as abstract images. Interestingly, this work creates the impression of a picture hung on a wall when a person standing inside the building looks at the window. As we faced contingencies from the influence of the novel coronavirus and the postponement of the Tokyo Olympics during the current competition, the judges discussed ways to proceed with the determination of the winners. I think that our discussions, considering all possibilities, including the postponement of the judgment and a re-proposal of the theme, were very meaningful for future CS Design Awards. Perfect judgment is difficult. However, I believe that we did our best to judge the works.



場所の必然性

松下 計

かねてから語られていた場所性について、新型コロナウイルスの影響を受けて一気に現実化に加速がかかった感がある。職場も、学校も、レストランも、それまで当たり前に捉えられていた不動産をベースとした「集合の構図」に対して、結果が同じであればわざわざ出向かずリモートやデリバリーで済むことは済ませ、あえて場を共有するのであれば、その必要がどこにあるのかを意識することが今後も定着しそうである。本年の選考においてもその意識が例年よりも働いたと感じている。いわば「表現の新規性」よりも、現実的な場の実装される事によって結果として何が加算されるのか、場が存在するからこそ立ち上がってくる提案性について問う視線が例年よりも意識されたと言える。そういう意味で金賞「光の年輪」と銀賞「mixture」と「景色」については場の必然性についての想像力に長け、今年の傾向を象徴している。特に金賞「光の年輪」については、図像のスケール感と、表現に取り込まれている同系色の階調変化がもたらす「ゆらぎ」など、この場にいる受け手のいかに感じ取るかについて心得ていて、場の説得力と「スパイラル35周年」というテーマに対する打ち返しにおいても他作品をリードしており

Necessity of Place

Kei Matsushita

The locality has been discussed for a long time, and it seems accelerated to be a reality all at once due to the effect of COVID-19. In contrast with composition of gathering based on real estate, which was taken for granted, workplaces, schools, and restaurants have become places where we work remotely or receive deliveries without bothering to visit as long as we might experience the same consequences. When we dare to share a place, it continues to seem popular such that we have to consciously think about why it is needed. In the current judgment as well, I felt that such awareness grew stronger than in the past. So to speak, this year the point of view focusing on the potential for proposals that would be possible because of the existence of a place, in other words, what would be added to a work as a result of installing it physically in a place, was considered more consciously rather than the novelty of expression. In that sense, the Gold Award winner, "35 annual light rings", and the Silver Award winners, "mixture" and "views" reflected the excellent imaginations of the artists on the necessity of the place, which represented the trends of this year. The Gold Award winning "35 annual light rings", in particular, skillfully showed an understanding of how the viewers would perceive the work through the scale sensitivity of its graphics and fluctuations brought about by gradation



ほぼ満場一致で評価された。銀賞「mixture」は、窓面を画面として扱うのではなく、室内空間全体を軟質感を想起させるような、空間に対する効果に意識を払われている点が評価に値する。同じく銀賞の「景色」は、全体のリズムミクなコンポジションによって得られる空間効果について意識が働いていると思わせる。本年図らずも図像よりも空間的なアプローチに意識を払う事になったのは、コロナ渦における未曾有の事態が、「場」について再考せられた結果ではないだろうか。

changes with similar colors incorporated into the expression. The work also took the lead over other entries in response to the theme of the 35th Anniversary of Spiral. Therefore, it was almost unanimously valued highly. The Silver Award winner, mixture was valued because it was carefully designed, not handling the window surface as the canvas but focusing on the effects on the space as if it reminded us of a soft texture in the entire space of the hall. Another Silver Award winner, views, was considered conscious of the spatial effect obtained with a rhythmic composition as a whole. We were unexpectedly more conscious of the spatial approach than the graphics this year. I suggest that unprecedented situation caused by COVID-19 pandemic led us to rethink the space again.

学生部門 審査風景

Student Category Scenes of Judgement



審査員（順不同敬称略）



色部 義昭[審査委員長]



菊竹 雪



廣村 正彰



松下 計

奇跡の開催

中川 興一【株式会社中川ケミカル代表取締役社長】

この度第21回CSデザイン賞の開催にあたり、全国よりご応募を頂きました皆様、審査の労をお取りくださった先生方、そしていつも変わらぬご支援を頂いております関係各位の皆様に、主催者を代表致しまして心より御礼を申し上げます。また学生部門ではスパイラルのワコールアートセンターの皆様にも大変なご協力を頂きました。重ねて感謝を申し上げます。お陰様でこのCSデザイン賞も満38年をなんとか迎えることができました。

さて、毎回楽しみにしている永井一正氏デザインのポスター。今回は颯爽と走る真っ赤なライオン! 本来であれば東京オリンピックの興奮とともにこのご挨拶を書いているはずでした。しかし、ご存知のようにそれは幻となり、さらに世の中のほぼ全ての展示会やイベントが中止されていきました。世界中が新型コロナウイルス感染症の恐怖に包まれ、そしてこの文章を書いている今現在(8月)、なお収束するどころか毎日感染者の増加が報道されております。審査会をどうすべきか悩む中で、このCSデザイン賞のことを真剣に、そして大切に考えて頂いている審査員の方々のお気持ちに触れることができたのは私にとってこの上なく貴重なことでしたし、またその温かいお言葉に大変に勇気を頂きました。今回の審査会を両部門とも無事に開催できたことは、正に奇跡であったと感じております。

ある意味で忘れられない回となった今回ですが、受賞作品はいつもながら素敵なものが揃いました。中でもグランプリの『D&DEPARTMENT TOYAMA GALLERY』の奇を衒わない、ストレートでシンプルな表現が評価されたことが印象的でした。ギャラリーの展示に合わせて定期的にグラフィックが変わるウインドウ面は、展示が終わればリセットされ、

また次の展示のためのデザインに変わる。この、同じ場所で『切って貼る、そして剥がす』の繰り返しは、カッティングシート表現のまさにお手本の様な使い方。今はどんなファサードが出現しているのだろうと、現在進行形で想像を掻き立てられる作品でした。

学生部門は、スパイラルの設立35周年がテーマとなりました。あの青山の象徴的なウインドウ面のデザイン。そして金賞の作品は実際の現場に施工されて掲出するという、なんともエキサイティングな回になりました。窓面のデザインを街の中の景色の一部として見たとき。またデザインした窓面を通して内側から外の景色を見たとき。そして日中の明るい時と空が暗くなってからの時間の見え方の違い。きっと様々なことをイメージしながらデザインされたであろう沢山の作品から元気を頂きました。金賞に選ばれた美しい35層の『光の年輪』が、青山の街の巨大なウインドウに出現することを想像しながら、今からワクワクしております。

未だ東京オリンピックが開催できるのかも分からないような状況です。人も企業も国も、世界中が疲弊していることをひしひしと感じます。しかし、こんな時こそ世界にデザインの力が必要なのではないのでしょうか。「シート素材を使って街の景色や空間をもっともっと素敵なものにしたい」という原点に立ち返り、これまでも本賞を支えて頂きました全ての方々の思いを再確認しながら、これからもこのアワードを続けて参りたいと、私どもは改めて決意を致しております。

CSデザイン賞が社会に感動と活力を生み出すきっかけになることを信じて。

It's a Miracle the Awards Were Held.

Koichi Nakagawa [President, Nakagawa Chemical Inc.]

For this year's 21st CS Design Awards, on behalf of the organizers, I would like to express my heartfelt gratitude to the applicants from all over Japan, all the judges who reviewed the entries, and all the parties who continued to support us. I appreciate everyone at the Spiral, Wacoal Art Center for the great cooperation we received in the Student Category. We managed to celebrate the 38th anniversary of the CS Design Awards thanks to all of you.

Every year, I look forward to the awards poster designed by Kazumasa Nagai. This year's poster featured a running lion in bright red! I was supposed to write this acknowledgment amidst the excitement of the Tokyo Olympics. Instead, as you know, the Olympics were postponed. Furthermore, most of the exhibitions and events have been canceled as well. The whole world is terrified of COVID-19. As I am writing this (in August), the situation is far from improved, and the number of COVID-19 patients is reportedly increasing. While I was concerned about what to do with the judge's meeting, it was an invaluable experience for me because I learned how much the judges cherished the CS Design Awards and how seriously they approached the judging of the competition. Moreover, I was very encouraged by their kind words. I consider it a miracle that we managed to convene the meetings to judge the categories.

The current competition is unforgettable in a sense, but all of the award-winning works were attractive as usual. In particular, I was impressed that the expression of the Grand Prix Award winner, "D&DEPARTMENT TOYAMA GALLERY", which intended nothing unusual but was straightforward and simple, was highly valued. The graphics on the window surface were replaced regularly for each exhibition at the gallery. Each design was cleared when the exhibition ended, and another would take over for the next

exhibition. The repetition of cutting, pasting, and peeling off at the same place is a very good example of using cutting sheets to express their characteristics. This was the work that continued to stir my imagination, making me wonder what design this gallery had on its façade at the moment.

The theme of the Student Category was the 35th anniversary of Spiral. The design was that of the iconic window of Aoyama. The fact that the Gold Award winner would be installed for an exhibition at the actual venue made the current competition even more exciting. In addition, we saw the design of the window surface as a part of the scenery in the street, the scenery outside from the inside through the designed window surface, and the difference in the appearance between during daytime and after the sky becomes dark. My spirit was lifted by the many works whose design the students created by picturing the various aspects. I am already excited to imagine the beautiful 35 layers of "35 annual light rings", the Gold Award winner, which will appear on the huge window in Aoyama.

We are still in a situation where it is uncertain whether the Tokyo Olympics will be held. I feel that people, companies, and countries throughout the globe are fatigued. However, I believe that the power of design is needed for the world now more than ever. By returning to the basics where our desire is to make scenes and spaces in town more attractive with sheet materials, we are determined to continue the CS Design Awards, while reconfirming the feelings of all the parties who have supported our Awards in the past.

We believe that the CS Design Awards will create opportunities to generate excitement and vitality in the community.

第21回CSデザイン賞

募集要項

一般部門

CSデザイン賞一般部門は、カッティングシート(およびそれに準ずる装飾用シート素材)を使用し、指定期間内に実際に施工されている作品が対象となります。
[例:建築ファサード、エクステリア、インテリア、ウィンドウ、店舗、イベントのディスプレイ、仮囲い、サイン、広告、車両・航空・船舶、モニュメント、アートなど]

学生部門

CSデザイン賞学生部門では、カッティングシート×デザインをテーマに設定し、カッティングシートの使用を前提としたデザイン提案を募集しております。第21回は、「35th Anniversary (or 35)」をテーマとした、複合文化施設「スパイラル」のスパイラルエスプラナードのガラス面へのデザイン提案です。規定に沿ったデザイン提案を制作し、提出していただきます。

審査員

一般部門（順不同敬称略）
審査委員長 原 研哉／佐藤 卓／石上 純也／五十嵐 久枝／服部 一成

学生部門（順不同敬称略）
審査委員長 色部 義昭／菊竹 雪／ 廣村 正彰／松下 計

グランプリ トロフィー

デザイン 五十嵐 威暢

後援団体（順不同）

- NPO法人 日本タイポグラフィ協会
- 公益社団法人 日本グラフィックデザイナー協会
- 公益社団法人 日本サインデザイン協会
- 公益社団法人 日本サイン協会
- 一般社団法人 日本空間デザイン協会
- 一般社団法人 日本商環境デザイン協会
- 一般社団法人 日本屋外広告業団体連合会
- 一般社団法人 日本ディスプレイ業団体連合会

主催／株式会社中川ケミカル
企画協力／スパイラル／株式会社ワコールアートセンター

CSデザインセンター <https://www.csdc.jp>
CSデザイン賞 <https://www.cs-designaward.jp>

応募数
一般部門 154作品
学生部門 197作品

The 21th CS Design Awards 2020

Solicitation Conditions

General Category

CS Design Award General Category limits its subject to works that use cutting sheets (or other similar sheet materials for decoration) and have actually been constructed during the designated period. [Examples: Building facades, exteriors, interiors, windows, stores, event displays, temporary fences, signs, advertisements, vehicles, aircraft, ships, monuments, art, etc.]

Student Category

CS Design Award Student Category has wanted design ideas using cutting sheets based on a certain theme. This 21st Award calls design ideas to the glass surface of the Spiral Esplanade at the cultural arts complex Spiral themed on its 35th Anniversary (or 35). Please submit your design ideas to us as created in accordance with the specifications.

Judges

General Category
Kenya Hara: Chief Judge / Taku Satoh / Jyunya Ishigami / Hisae Igarashi / Kazunari Hattori

Student Category
Yoshiaki Irobe : Chief Judge / Yuki Kikutake / Masaaki Hiromura / Kei Matsushita

Grand Prix Award Trophy

Design : Takenobu Igarashi

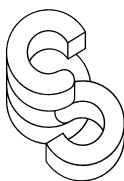
Supporters

- Japan Typography Association
- Japan Graphic Designers Association
- Japan Sign Design Association
- Japan Sign Association
- Japan Design Space Association
- Japan Commercial Environmental Design Association
- Federation of Japan Out-door Advertising Associations
- Nippon Display Federation

Sponsor / Nakagawa Chemical Inc.
Cooperation / SPIRAL/Wacoal Art Center

CS DESIGN CENTER <https://www.csdc.jp>
CS DESIGN AWARD <https://www.cs-designaward.jp>

The number of application
General Category:total number 154
Student Category:total number 197



CS DESIGN award